

## 本店および主要な事業所 (平成19年6月28日現在)

本店	東京都中央区日本橋茅場町1丁目13番16号 〒103-8211 電話 (03)3660-4040 (代表)
ロジスティクス営業本部	本店同所在地
営業管理部	本店同所在地
中央営業部	本店同所在地
営業推進部	本店同所在地
海外事業室	東京都中央区日本橋蛸殻町2丁目10番30号 〒103-0014 電話 (03)3660-4012
国際営業支店	東京都中央区日本橋蛸殻町2丁目10番30号 〒103-0014 電話 (03)3660-4038
引越営業支店	東京都江東区辰巳1丁目7番10号 〒135-0053 電話 (03)5534-1015
関東支店	東京都中央区日本橋蛸殻町2丁目10番30号 〒103-0014 電話 (03)3660-4001
北関東支店	さいたま市北区宮原町3丁目680番地2 〒331-0812 電話 (048)654-8801
中部支店	愛知県小牧市入鹿出新田822番地 〒485-0084 電話 (0568)76-4597
関西支店	大阪市港区築港4丁目1番11号 〒552-0021 電話 (06)6573-9100
中国・九州支店	福岡県糟屋郡新宮町下府2丁目9番26号 〒811-0112 電話 (092)962-6070
不動産営業本部	本店同所在地
不動産部	本店同所在地

## 株主メモ

設立	明治42年7月15日 (創業 澁澤榮一を営業主として明治30年3月30日)
資本金	7,847,090,151円 (平成19年3月31日現在)
事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月
配当金受領 株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
基準日	定時株主総会については3月31日、その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先、電話お問合せ先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は次のホームページアドレスに掲載します。 <a href="http://www.shibusawa.co.jp">http://www.shibusawa.co.jp</a>

## ホームページのご案内

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、当社の事業活動や動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも、是非アクセスしてください。

<http://www.shibusawa.co.jp>



古紙/リサイクル配合率100%再生紙を使用しています。



## 第160期 報告書

2006.4.1 — 2007.3.31

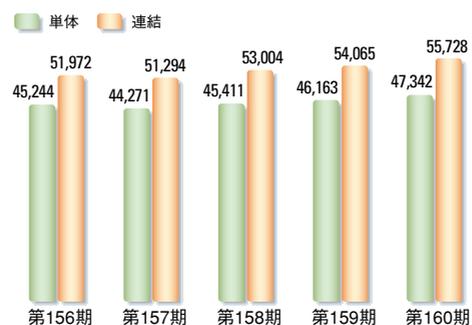
STRATEGIC LOGISTICS

**澁澤倉庫株式会社**

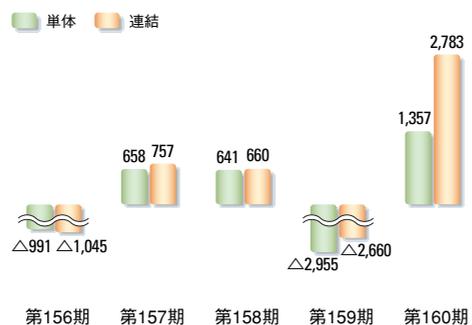
The Shibusawa Warehouse Co., Ltd.

# 財務ハイライト

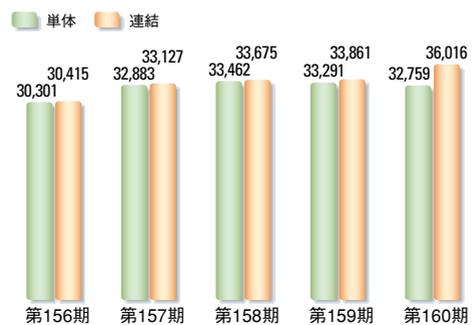
● 営業収益 (単位: 百万円)



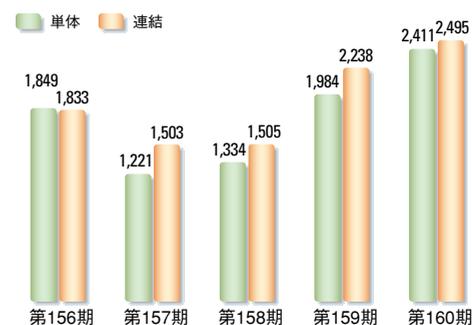
● 当期純損益 (単位: 百万円)



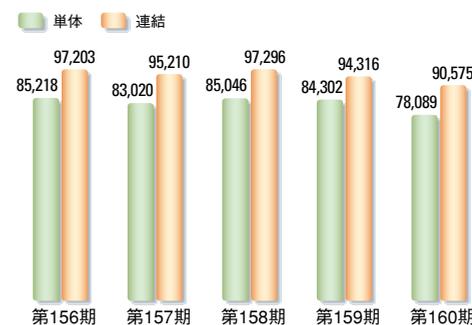
● 純資産 (単位: 百万円)



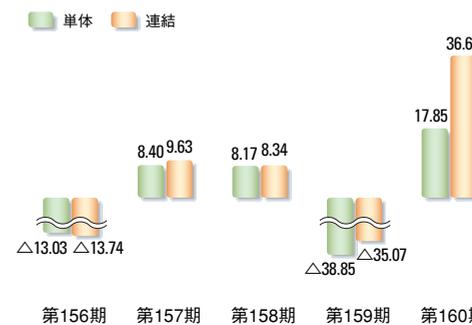
● 経常利益 (単位: 百万円)



● 総資産 (単位: 百万円)



● 1株当たり当期純損益 (単位: 円)



# 株主の皆様へ

## TOP MESSAGE



代表取締役社長 犬塚 静衛

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
 平素は、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 当社は平成19年3月30日をもって、創業110周年を迎えることができました。  
 これも、ひとえに株主の皆様のご支援の賜と、深く感謝申し上げます。  
 さて、当社グループ第160期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の  
 営業の概況、会社の概況ならびに決算の内容につきましてご報告申し上げますの  
 で、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

当期のわが国経済は、民間設備投資が増加したほか、個人消費が底堅く推移する  
 など景気は緩やかな拡大を持続しました。物流業界におきましては、物流合理化  
 の影響や競争激化があるものの、輸出入貨物は増加傾向にあり、また、不動産  
 賃貸業界におきましては、オフィスビルの需給改善が鮮明になり、賃料相場も上  
 昇傾向で推移するなど、明るさを取り戻してまいりました。

当社グループにおきましては、このような情勢のもと、平成18年度を初年度と  
 する3ヵ年の中期経営計画「SUCCESS 2008」の事業戦略に沿い、物流事業の収  
 益力向上と保有資産の有効活用に取り組んでまいりました結果、当期の連結業績  
 は、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益とも前期を上回り順調に推移い  
 たしました。

当期末の配当金につきましては、株主の皆様の日頃のご支援にお応えすべく、  
 創業110周年記念配当2円を含め1株につき5円とさせていただきます。これによ  
 り、中間配当金3円を含めた当期の配当金は、1株につき8円（前期に比べ2円の増  
 額）となります。

厳しい事業環境ではございますが、今後とも、役職員一同、中期経営計画  
 「SUCCESS 2008」に沿い、企業価値の増大へ向けて邁進してまいりますととも  
 に、「チャレンジ、クリエイト、コオペレイト すべてはお客様のために」を経営  
 モットーに、お客様第一、現場第一、安全第一を貫徹し、お客様や社会から確か  
 な信頼を得られる企業であり続けることを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよ  
 うお願い申し上げます。

平成19年6月28日

## 目次

- 財務ハイライト ..... 1
- 株主の皆様へ ..... 2
- セグメント別の概況 ... 3
- TOPICS  
(トピックス) ..... 5
- 営業の概況【連結】 ..... 6
- 連結決算の概要 ..... 7
- 個別決算の概要 ..... 9
- 会社概要／役員／  
株式の状況 ..... 10

# セグメント別の概況

## 物流事業

**倉庫業務** 寄託を受けた貨物の倉庫保管を行うとともに、倉入・倉出し作業およびこれに伴う諸作業を行う業務

数量ベースの保管残高は前期をやや下回って推移しましたが、一昨年12月に千葉北第二倉庫が本格稼働したことや安中営業所の新設などにより、日用品や食品類等を中心に入出庫数量が増加したことに加え、積極的に流通加工業務への取組をはかったことにより、保管料、荷役料ともに増加し、営業収益は前期比12.2%の増収となりました。



**港湾運送業務** 港湾において船内荷役、沿岸荷役、はしけ運送、上屋保管およびこれに伴う荷捌を行う業務

前期にあったプロジェクト貨物の取扱いが終了した影響があったものの、輸出入貨物の取扱いが堅調に推移したことに加え、在来船に係る船内荷役業務が伸張したことにより、営業収益は前期並みを確保できました。



**陸上運送業務** 国内における貨物自動車運送業務およびこれに伴う荷捌を行う業務

引越業務の取扱いが前期をやや下回ったほか、一部業務の縮小の影響がありましたが、フェリー輸送が堅調に推移したほか、拠点の新設と増強によるトラック輸配送の増加もあり、営業収益は前期比0.4%の微増収となりました。



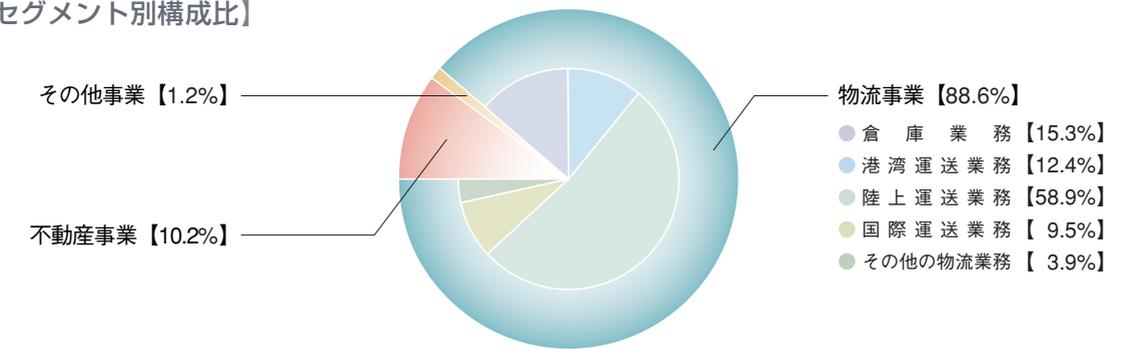
**国際輸送業務** 国際一貫輸送業務、国際航空貨物運送業務およびこれに伴う荷捌を行う業務

医療器械や自動車関連部材を中心に輸出航空貨物の取扱いが伸張したことに加え、海上輸送による日本/アジア間の国際一貫輸送や海外荷捌業務も好調に推移しました。また、当期より澁澤(香港)有 限 公 司 を 連 結 子 会 社 と し た こ と も あ り 、 営 業 収 益 は 前 期 比 19.2% の 増 収 と な り ま し た 。



この結果、物流事業全体の営業収益は494億7百万円（前期比3.3%増）となりました。

## 【セグメント別構成比】



## 不動産事業

一部賃貸施設において賃貸借契約の解約がありましたが、神戸市東灘区深江浜の土地の再活用や賃貸用マンション「ドミール菊川」の稼働開始のほか、東京都江東区にあった流動化資産の信託解除と売却に伴う不動産付帯収入があり、営業収益は57億9百万円（前期比2.0%増）となりました。



## その他事業

ゴルフ場運営につきましては、集客営業に努めましたが、週末の雨天増加の影響や近隣ゴルフ場との競争激化もあり、来場者数が伸び悩んだため、営業収益は6億6千1百万円（前期比4.9%減）となりました。



## 埼玉県三郷市に新たな物流拠点として関東支店「三郷営業所」を開設

このたび、当社は埼玉県三郷市に新たな物流拠点として、関東支店三郷営業所を開設しました。同営業所は首都高速三郷線、外環自動車道、常磐自動車道が交差する三郷ジャンクションおよび三郷インターチェンジに近接しており、首都圏から北日本地域までをカバーする物流拠点として最適なロケーションに位置しております。

当営業所は、静岡県以東、北日本全域への配送拠点として多様なサービスを提供するとともに、3フロア、延べ約2,000坪にセキュリティ機能を完備し、文書保管専用スペースとして区画、独立させ、首都圏における文書保管業務の拡大をはかっております。



(関東支店三郷営業所)

### ■関東支店三郷営業所

- 住所：〒341-0055 埼玉県三郷市上口3丁目41番地
- 電話：048-949-2411（代表）
- FAX：048-949-2341
- 開設日：平成19年4月1日
- 営業開始日：平成19年4月2日

### 【施設・設備の概要】

敷地面積	9,918.43㎡ (3,000.32坪)
建物構造	鉄骨造 (柱SRC) 4階建 高床式プラットフォーム
床荷重	倉庫 1.5トン/㎡ 事務所 0.3トン/㎡
床面積	1階 5,550.40㎡ (1,679.00坪) 底込み、事務所207.11坪込み
	2階 4,760.00㎡ (1,439.90坪)
	3階 4,760.00㎡ (1,439.90坪)
	4階 4,760.00㎡ (1,439.90坪)
	合計 19,830.40㎡ (5,998.70坪)
主要な設備	貨物用エレベーター 3.5トン 3基 垂直搬送機 1.0トン 3基 ドッグレベラー 6.0トン 2基 空調室 200㎡ (約66坪) 大型庇 (13m)

【主な取扱い品目】：日用品、雑貨、一般文書類、書籍等、カルテ、レントゲンフィルム、シネフィルム、絵画、美術品、骨董品ほか

## ● 営業の概況【連結】

### ● 当期の概況

当期におけるわが国経済は、原油価格の動向が懸念されるなか、海外経済の拡大を背景とした輸出の増加や企業収益の改善を受けて設備投資も引き続き増加し、雇用や所得環境の改善が広がり、個人消費が底堅く推移するなど景気は緩やかな拡大を持続しました。

こうした経済情勢にあって、物流業界におきましては、国内保管残高が前年をやや下回って推移するなか、市場競争は依然として激しく、燃料費等コスト上昇要因の増加もあり事業環境の厳しさに大きな変化は見られませんでした。輸出入貨物が増加するなど荷動きにもやや明るさが見えてきました。また、不動産賃貸業界におきましては、オフィス・スペースの需給改善が鮮明になっており、募集賃料相場も上昇傾向が続くなど、全体に市況は明るさを増してまいりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、平成18年度を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「SUCCESS 2008」の事業戦略に沿い、物流事業におきましては、一昨年12月より稼働した京葉配送営業所千葉北第二倉庫を本格稼働させるとともに、群馬県安中市に拠点を新設し、倉庫を基点とした輸配送業務の強化と流通加工業務の拡大など配送センター機能の拡充をはかってまいりました。また、中国・東南アジアにおける国際ネットワークの強化と陸運事業の質的転換を推進し、営業の拡大と採算性の向上への取り組みを実行してまいりました。さらに、大型物流センター整備の一環として愛知県小牧市の名古屋営業所において新倉庫（延床面積11,998.50㎡）の建設に着手いたしました。不動産事業におきましては、「保有資産の有効活用」の一環として東京都墨田区の賃貸用マンション「ドミール菊川」（地上7階建、総戸数102戸、延床面積3,885.27㎡）を昨年10月に竣工させ、稼働を開始いたしました。また、既存賃貸施設の機能改善にも注力し、安定的なテナント契約の維持に努めてまいりました。その他事業のゴルフ場の経営につきましても、引き続き集客営業の推進と運営コストの低減に注力し、健全経営の維持に努めました。財務体質の強化につきましては、普通社債の償還を自己資金で行うなど有利子負債の削減に努めました。

この結果、当期の営業収益は557億2千8百万円（前期比3.1%増）、営業利益は26億6千1百万円（前期比12.9%増）、経常利益は24億9千5百万円（前期比11.5%増）となりました。また、特別利益として、当社および澁澤（香港）有限公司による固定資産売却益等28億1千4百万円を計上する一方、施設撤去費用や固定資産処分損等による特別損失3億5千万

円を計上したため、当期純利益は27億8千3百万円となり、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用による減損損失等により純損失となった前期に比べ、54億4千3百万円の増加となりました。

### ● 次期の見通し

今後のわが国経済は、引き続き輸出が増加傾向を維持し、企業収益も好調を持続するものと見込まれ、民間需要に支えられた景気回復が続くものと予測されています。

物流業界におきましては、荷主企業からの物流合理化要請に応えるべく、さらなる物流品質の高度化が求められております。また、燃料価格をはじめとするコスト上昇要因の増加に対処するため、一層の効率化への要請も高まっております。また、不動産賃貸業界におきましては、賃貸オフィスビル市場の需給改善が進み、今後も需要は伸びることが予測されており、新規高機能ビルの建設は勿論、既存賃貸施設のリニューアルなど供給も引き続き増加するものと見込まれます。

このような事業環境のもと、当社グループは、中期経営計画「SUCCESS 2008」に沿い、「物流事業の収益力向上」と「保有資産の有効活用」を中心的課題として企業価値の増大に邁進してまいります。

次期の連結業績見通しであります。物流事業におきましては、概ね当期並みの荷動きが持続するものと予測されることに加え、現在建設中の名古屋営業所の新倉庫が本年7月より業績に寄与してまいります。また、不動産事業におきましても、昨年11月より稼働した賃貸用マンション「ドミール菊川」が通期寄与してまいりますので、全体の営業収益は当期に比べ約20億円増の577億円程度を見込んでおります。利益につきましては、当期にあった東京都江東区の流動化資産の信託解除と売却に伴う不動産付帯収入がなくなることや、固定資産の取得に係る一時費用および「澁澤蛸殻町ビル」の再開発に伴う費用や管理費用の増加が見込まれますことから、営業利益は約27億円、経常利益は約25億円と当期並みを予測しております。また、次期の当期純利益につきましては、固定資産売却に伴う特別利益がなくなることや、前述の不動産再開発に伴う固定資産除却損の発生も見込まれますことから、当期に比べ約17億円減の11億円程度になると予測しております。

なお、次期の個別の業績については、営業収益は約495億円、営業利益は約24億8千万円および経常利益は約23億円、当期純利益は約10億円を予測しております。

# 連結決算の概要

連結貸借対照表 (要旨) (単位: 百万円)

科 目	当 期		科 目	当 期	
	平成19年3月31日現在	前期 平成18年3月31日現在		平成19年3月31日現在	前期 平成18年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>					
流動資産	23,183	22,473	流動負債	21,009	22,853
現金及び預金	9,702	5,475	支払手形及び営業未払金	6,437	6,417
受取手形及び取引先未収金	11,370	10,532	短期借入金	6,099	8,464
有価証券	2	4,639	1年以内償還社債	3,000	4,000
立替金	965	935	預り金	912	889
繰延税金資産	438	350	未払法人税等	1,514	115
その他の	728	579	賞与引当金	562	568
貸倒引当金	△ 24	△ 39	役員賞与引当金	26	—
固定資産	67,391	71,842	その他	2,457	2,398
有形固定資産	46,833	47,499	固定負債	33,549	37,145
建物及び構築物	24,661	25,520	社債	—	3,000
機械装置及び運搬具	1,660	1,773	長期借入金	18,719	17,616
土地	18,840	18,839	長期預り金	9,822	10,435
コ—	795	795	繰延税金負債	2,313	3,333
建設仮勘定	523	265	退職給付引当金	2,444	2,523
その他の	352	305	役員退職慰労引当金	7	236
無形固定資産	891	962	その他	241	—
借地権	508	510	負債合計	54,558	59,999
その他の	382	451	(少数株主持分)		
投資その他の資産	19,666	23,381	少数株主持分	—	455
投資有価証券	16,804	20,390	(資本の部)		
長期貸付金	789	802	資本金	—	7,847
差入保証金	1,190	1,163	資本剰余金	—	5,663
繰延税金資産	393	378	利益剰余金	—	14,283
その他の	571	789	株式等評価差額金	—	6,103
貸倒引当金	△ 84	△ 144	為替換算調整勘定	—	△ 27
資産合計	90,575	94,316	自己株式	—	△ 9
			資本合計	—	33,861
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	94,316
<b>(純資産の部)</b>					
			株主資本	30,103	—
			資本	7,847	—
			資本剰余金	5,663	—
			利益剰余金	16,603	—
			自己株式	△ 11	—
			評価・換算差額等	4,639	—
			その他有価証券評価差額金	4,658	—
			為替換算調整勘定	△ 19	—
			少数株主持分	1,273	—
			純資産合計	36,016	—
			負債及び純資産合計	90,575	—

連結損益計算書 (要旨) (単位: 百万円)

科 目	当 期		前 期	
	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業収益	55,728	54,065		
営業原価	49,727	48,455		
営業総利益	6,000	5,610		
販売費及び一般管理費	3,338	3,253		
営業利益	2,661	2,356		
営業外収益	513	500		
営業外費用	679	619		
経常利益	2,495	2,238		
特別利益	2,814	110		
特別損失	350	4,022		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	4,958	△ 1,674		
法人税、住民税及び事業税	1,546	157		
法人税等調整額	△ 131	902		
少数株主利益	760	—		
少数株主損失	—	72		
当期純利益又は当期純損失(△)	2,783	△ 2,660		

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位: 百万円)

科 目	当 期		前 期	
	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,133	3,885		
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,702	695		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,780	△ 5,613		
現金及び現金同等物の換算差額	△ 0	1		
現金及び現金同等物の増減額	△ 945	△ 1,030		
現金及び現金同等物の期首残高	7,833	8,864		
連結子会社増加に伴う現金 及び現金同等物の増加額	45	—		
現金及び現金同等物の期末残高	6,933	7,833		

連結株主資本等変動計算書 (単位: 百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持 分
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	
前期末残高(平成18年3月31日現在)	7,847	5,663	14,283	△ 9	27,784	6,103	△ 27	455
当期中の変動額								
剰余金の配当			△ 456		△ 456			
役員賞与			△ 6		△ 6			
当期純利益			2,783		2,783			
自己株式の取得				△ 1	△ 1			
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						△ 1,444	8	817
当期中の変動額合計	—	—	2,320	△ 1	2,318	△ 1,444	8	817
当期末残高(平成19年3月31日現在)	7,847	5,663	16,603	△ 11	30,103	4,658	△ 19	1,273

## 個別決算の概要

科 目	当 期	前 期
	平成19年3月31日現在	平成18年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	17,413	19,126
固定資産	60,675	65,175
有形固定資産	38,465	38,941
無形固定資産	834	905
投資その他の資産	21,375	25,328
資産合計	78,089	84,302
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	15,451	18,107
固定負債	29,878	32,903
負債合計	45,330	51,011
<b>(資本の部)</b>		
資本金	—	7,847
資本剰余金	—	5,660
利益剰余金	—	13,775
株式等評価差額金	—	6,017
自己株式	△ 9	—
資本合計	—	33,291
負債及び資本合計	—	84,302
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	28,173	—
資本金	7,847	—
資本剰余金	5,660	—
利益剰余金	14,676	—
自己株式	△ 11	—
評価・換算差額等	4,586	—
純資産合計	32,759	—
負債及び純資産合計	78,089	—

## 株主資本等変動計算書 (単位: 百万円)

当期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

	株主資本							自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				株主資本合計				その他有価証券評価差額金
			配当準備積立金	特別償却積立金	圧縮記帳積立金	別途利益剰余金					
前期末残高 (平成18年3月31日現在)	7,847	5,660	1,500	5	715	13,600	△2,045	△ 9	27,273	6,017	
当期中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	△ 456	—	△ 456	—	
特別償却積立金の取崩し	—	—	—	△ 3	—	—	3	—	—	—	
別途積立金の取崩し	—	—	—	—	—	△ 3,600	3,600	—	—	—	
当期純利益	—	—	—	—	—	—	1,357	—	1,357	—	
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	△ 1	△ 1	—	
株主資本以外の項目の当期中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 1,431	
当期中の変動額合計	—	—	—	△ 3	—	△ 3,600	4,504	△ 1	899	△ 1,431	
当期末残高 (平成19年3月31日現在)	7,847	5,660	1,500	1	715	10,000	2,459	△ 11	28,173	4,586	

科 目	当 期	前 期
	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業収益	47,342	46,163
営業原価	41,943	41,284
営業総利益	5,398	4,879
販売費及び一般管理費	2,918	2,872
営業利益	2,480	2,007
営業外収益	444	479
営業外費用	513	502
経常利益	2,411	1,984
特別利益	564	78
特別損失	492	4,143
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	2,483	△ 2,079
法人税、住民税及び事業税	1,263	58
法人税等調整額	△ 137	817
当期純利益又は当期純損失(△)	1,357	△ 2,955

## 会社概要 (平成19年3月31日現在)

商 号 澁澤倉庫株式会社  
 (英文表記) The Shibusawa Warehouse Co., Ltd.  
 所在地 東京都中央区日本橋茅場町一丁目13番16号  
 創 業 明治30年(1897年)3月30日  
 設 立 明治42年(1909年)7月15日  
 資 本 金 7,847百万円  
 グループ従業員数 1,146名  
 営 業 種 目 倉庫業、陸上運送業、海上運送業、港湾運送業、陸上・海上・航空運送の取扱業、陸海空複合貨物運送業及びその取扱業、通関業、医薬品・医薬部外品・化粧品及び医療機器の包装・表示及び保管業、不動産の売買・仲介・管理及び賃貸業、情報システムの企画・開発・販売及び運営管理業ほか

## 役員 (平成19年6月28日現在)

取締役会長 北村敏夫  
 ※取締役社長 犬塚静衛  
 ※専務取締役 本多紘三  
 ※常務取締役 井上博之  
 ※常務取締役 水越啓蔵  
 常務取締役 齋藤秀一  
 取締役 笠原伸次  
 取締役 下岡隆徹  
 取締役 薬師寺徹夫  
 取締役 駒崎慶夫  
 取締役 古賀保馬  
 取締役 松本伸也  
 常勤監査役 森田久雄  
 監査役 福島正樹  
 監査役 須田光邦  
 監査役 庄籠一允  
 監査役 齋藤宏

(注) 1. ※印は代表取締役を示しております。  
 2. 取締役松本伸也氏は、社外取締役であります。  
 3. 監査役須田光邦、庄籠一允、齋藤 宏の3氏は社外監査役であります。

## 株式の状況 (平成19年3月31日現在)

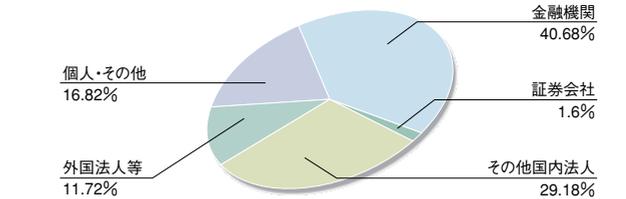
発行可能株式総数 ..... 240,000,000株  
 (注) 平成18年6月29日開催の第150期定時株主総会決議により、124,780,000株増加しております。

発行済株式の総数 ..... 76,088,737株  
 株主数 ..... 4,544名  
 主な株主

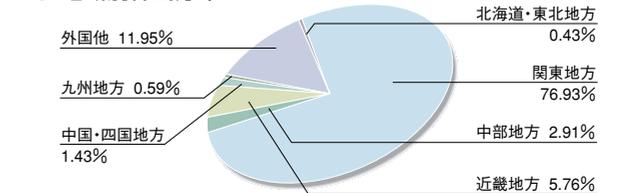
株 主 名	持 株 数	出 資 比 率
	(千株)	(%)
東京海上日動火災保険(株)	6,340	8.3
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	3,748	4.9
清水建設(株)	2,349	3.1
(学) 帝京大学	2,075	2.7
中央不動産(株)	2,058	2.7
(株) 埼玉りそな銀行	2,000	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,952	2.6
日本ゼオン(株)	1,670	2.2
日本興亜損害保険(株)	1,613	2.1
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	1,591	2.1

(注) 出資比率は自己株式(34,905株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布



### 地域別株式分布



(注) 本報告書に記載の金額および株式数は、表示単位未満の端数を切捨てとし、また、百分比につきましては、表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。